

ID No.	324
研究課題名	A型インフルエンザウイルス感染動態の生体内ライブイメージング
研究代表者	小澤 真 (鹿児島大学・准教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	河岡 義裕 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
<p>蛍光蛋白質を安定発現する組換えウイルスは、生体内でのウイルス感染動態の解明に有用な実験ツールだが、遺伝子変異率が高く、また分節遺伝子のウイルス粒子内取り込み機構が複雑なA型インフルエンザウイルスに関しては、十分な実用性を備えたレポーター遺伝子発現組換えウイルスが作出されていない。そこで本研究では、①レポーター遺伝子をコードしたウイルスRNA（レポーターvRNA）を発現するトランスジェニックマウス（Tgマウス）の作製と、②先行研究で作出されたレポーター遺伝子発現組換えウイルスの改良の2通りのアプローチにより、A型インフルエンザウイルス感染動態の生体内ライブイメージング実験系の確立を試みた。</p> <p>Tgマウス作製の試みは、レポーターvRNAの発現に必要なDNA配列を有するF1マウスを3系統樹立することが出来たが、いずれの系統のマウスにおいてもレポーターvRNAの発現は観察されなかった。一方、組換えウイルスの改良は、安定的に蛍光蛋白質し、なおかつ野生型に匹敵する病原性を示すレポーター遺伝子発現組換えウイルスの作出に成功した。後者の研究成果については、現在科学雑誌に論文を投稿している。</p>	